

調査地区の概要 ～坂井北部地区 施設機能診断調査～

1. 坂井北部地区の概要

坂井北部地区は、福井県北部のあわら市と坂井市にまたがる標高40m前後の緩やかな丘陵地に位置しており、昭和43年度～昭和61年度にかけて、国営総合農地開発事業により、九頭竜川から導水し農業用水を確保するとともに、農地造成、水田と畑の区画整理、水田の用水補給が行われています。

丘陵地に広がる約1,000ヘクタールの畑地は、福井県有数の園芸産地となっており、メロン、スイカ、さつまいも等の野菜、梨、柿等の果樹など様々な品目が栽培されています。

本調査の対象施設である「新江導水路」は、九頭竜川の鳴鹿堰堤で取水された水を地区に導入するための水路で、サイホン、トンネル等の函渠を主体とした全長14.6kmの複合水路です。導水路により安定的に供給される農業用水は、地区営農の発展に重要な役割を担っています。



坂井北部丘陵地



新江導水路

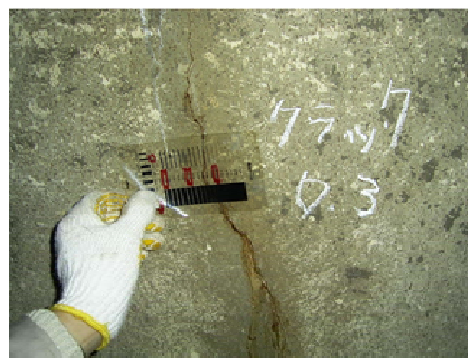
2. 機能診断の目的

昭和54年に造成された新江導水路は、供用開始から約40年が経過しており、平成16年度～平成23年度の間に行われた機能診断調査に続いて、今回が2回目の機能診断調査となります。

調査では、現時点における施設の状態、劣化の過程やその原因を把握して、施設の機能を5段階で評価します。これらの評価結果をもとに、機能保全計画の策定を行い、施設の長寿命化を図ることを目的としています。



過年度の調査(コンクリート強度試験)



過年度の調査(ひび割れ幅確認状況)